令和５年度学校教育自己診断の結果と分析

【生徒全体】

すべての項目において肯定的評価の割合が前年度を上回っており、全体として学校生活の満足度が高まっていると思われる。特に、「ホームルームや授業などで将来の進路や生き方について考える機会がある。」「八尾北高校では、人権教育についての取組みが、ホームルームをはじめ様々な場面でなされている」については、肯定的評価の割合が前年度を大きく上回っており、産業社会と人間や総合的な探究の時間における学習活動が充実していたと考えられる。

また、「授業や部活動、学校行事を通じて、他の学校や幼稚園・保育園等との交流の機会が多い。」についても、前年度から肯定的評価の割合が 12.6%上昇していることから、コロナ禍を超え、地域との交流が増えたことを実感しているといえる。

【１年生】

１年生は、「この学校では、図書館が生徒に活用されている。」における肯定的評価の割合が他学年より高い。これは、図書館と連携し、読書に対する関心を高める授業が設けられていたことが要因であると考える。一方で、「学校は生徒１人１台端末を効果的に活用している。」については、肯定的評価の割合が他学年より低く、各教科で工夫する余地がある。

【２年生】

２年生は、他学年に比べて、全体的に肯定的評価の割合が低かったが、それでも昨年度と比べると 20 項目中 14 項目において肯定的評価の割合が昨年度を上回っている。特に「学校生活全般において生徒がビデオ・スライドなどの視聴覚機器やコンピュータなどを使って学習したり発表したりする機会が多い。」や「学校は生徒１人１台端末を効果的に活用している。」については、昨年度より大幅に高く、ICT 機器や１人１台端末を有効に活用できているといえる。

【３年生】

３年生は、すべての項目において肯定的評価の割合が前年度を上回っていた。特に「学校へ行くのが楽しい。」における肯定的評価の割合が昨年度より 8.7%高く、３学年のなかで最も高い値であった。そのため、充実した学校生活を送れたと評価できる。また「学校は生徒１人１台端末を効果的に活用している。」についても、肯定的評価の割合が他学年より高かった。これは、課題研究の時間において、１人１台端末を積極的に活用していることが要因であろう。したがって、これらの取組みを、各教科の授業における活用に広げていくきっかけにしていくことで、さらなる活用につなげられるだろう。

【保護者】

保護者は、肯定的評価の割合が昨年度より増加した項目が９、昨年度より減少した項目が６と、前年度より肯定的評価が増加しているものの、生徒の数値ほどは増加していない。生徒は、「学校へ行くのが楽しい。」における肯定的評価の割合が 82.3%であるのに対し、保護者の「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。」における肯定的評価の割合は 78.4%にとどまっている。

また、「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」における肯定的評価の割合も 53.7%にとどまっているため、今後は行事や授業において、生徒の姿を保護者に直接観てもらう機会を充実させたい。一方で、「学校は、ホームページに必要な情報を載せている。」の肯定的評価の割合は 90.3%と高く、学校の情報についてはよく伝わっている。

【教職員】

教職員は、肯定的評価の割合が昨年度より増加した項目が 17、昨年 度より減少した項目が６と、前年度より肯定的評価が増加している。特に、「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている。」については、肯定的評価の割合が前年度より 23.3%増加した。これは、授業研究チームの取組みが継続して行われているだけでなく、授業研究チームの人数が 24 人と非常に多く、授業改善への意欲が高まったことも大きな要因であると考える。これを受けてか、「本校の教育活動について、教職員間で日常的によく話し合っている。」の肯定的評価の割合も 89.8%と高い値を維持している。この流れを大切に、多様な生徒の多様な学びや進路を実現できるよう、確かな学力を育みたい。